

事務事業評価シート

H27(標準事業)

① 基本事項	計画コード	03193-1	事業名	思春期ライフプラン事業	部名	健康福祉部
	室名	子ども総合センター子ども家庭室			財	会計
	基本施策の大綱	05:次世代を担う人づくりと歴史文化の振興			務	一般会計
	基本施策	02:子育て支援			科	民生費
	施策の方向	02:すべての子育てを支援するしくみづくり			目	児童福祉費
戦略プロジェクト				目	児童福祉総務費	

② 目的・概要	対象	市内中学校
	目的	市内の若者が住み慣れた地域で希望を持って結婚し、安心して妊娠・出産・育児ができる良質な環境づくりを目指します。
概要	中学生を対象として、助産師を講師に招くとともに、乳幼児の親子にも参加していただき、正しい妊娠・出産に関する認識の習得とともに、赤ちゃんとのふれあいや赤ちゃん人形を抱っこする模擬体験をする。	

		27年度	28年度
①	名称	中学校数	計画値
	補足		実績値
			3校
②	名称	参加者数	計画値
	補足		実績値
			405人
③	名称		計画値
	補足		実績値
			単位
④	名称		計画値
	補足		実績値
			単位

年度計画				年度実績				
④ 事業の計画・実績					・参加者内訳 亀山中学校3年生 177人 中部中学校2年生 170人 関中学校2年生 58人			
	事業費	計画額	予算額	決算額	人件費	総人件費 ①	758	
	国庫支出金					一般職員人件費 ②	758	平均給与額×③
	県支出金		156	140		所要人員 ③	0.10	
	地方債					臨時職員人件費 ④		
	その他					受益者負担額 ⑤		
	一般財源					受益者負担率	0.0%	⑤ / ⑥
	再掲	翌年度への繰越額						
		前年度からの繰越額						
		総人件費		①	758			
	総コスト		⑥	898				

⑤ 事業の評価	【事業の成果】	少子化や核家族化、一人親家庭の増加など多様化する家庭環境の中で、家族像の空洞化も危惧される状況の中、正しい妊娠・出産に関する認識の習得とともに、赤ちゃん人形を抱っこする模擬体験をすることで、将来、子どもを産み育てる希望をより具体的に持てる効果があった。	総合判定
	【反省点・課題】	思春期真っただ中の生徒であるため、授業に対する姿勢について、個人差が感じられたことから、授業内容の重要性を伝える工夫が必要である。	A 順調に進んだ
	【改善の方向性】	中学生の妊娠も身近に起こっている現状や、問題点を具体的に知らせることで、問題意識を高めていく必要がある。また、思春期ライフプランの授業を繰り返す行うことで、子どもたちの知識を高め、未来への希望につなげていきたい。	
事業目的の妥当性: 適切		有効性: 適切	最終評価確認者: 子ども家庭室長 青木 正彦